



豊原 大樹

東レ株式会社 水処理事業部門

## 中東協力センター創立 50 周年によせて

中東協力センター創立 50 周年、おめでとうございます。

JCCME と小職との関りは 2001 年に設立された中東水資源協力推進会議からとなります。当時の勤務先から副委員長を出していただきましたので実務担当として、JCCME の皆さんと密にワークをすることとなりました。2002 年 1 月に経済産業省、JCCME の皆さんとともに露払いの GCC 諸国行脚、2002 年 3 月に第 1 回の本番の水ビジネスミッションに参画しました。日本の水処理企業の技術紹介をおこない、中東水処理関連現地企業との対話の端緒となりました。GCC 諸国のみならず、イランや北アフリカにもミッションが派遣され、日本の水処理企業のプレゼンスを高めることとなりました。当時の前田高行審議役、菊池一夫審議役はじめ日本の石油産業で中東のオイルビジネスで活躍されたベテランの皆さんのご尽力の賜物であります。

その後 2000 年代後半の RO 膜や MBR 膜といった水処理膜の中東でのビジネスはどんどん拡大していきました。2006 年に東レに移籍以降、幸いにもこの大きなビジネス拡大とともに歩んで来ることができました。

2010 年代に入っても中東での水処理膜ビジネスの拡大は続き、東レはサウジアラビア企業と合併で水処理膜の工場建設をおこなうことになりました。工場建設の FS や現地従業員の来日トレーニングに JCCME のスキームを活用させていただきました。工場の規模は拡大し、今ではサウジアラビアから近隣諸国に水処理膜を輸出するまでに至っています。会社の若手に水ビジネスミッションに参加してもらい、各々貴重な経験、成長の糧となりました。振り返ってみれば中東水資源協力推進会議の存在と事業は当社にとって、また小職の職業人生にとっても実に大きなものをもたらしたと言えます。

2005 年、2015 年にイランへのミッションに参加させていただいたのですが、2 度目のイランでは大いに感動しました。イラン側の JCCME への信頼の厚さです。10 年以上に及ぶ経験、濃密なワークを積み重ねてこられた岡崎陽介審議役はじめ JCCME の皆様のプロフェッショナルな仕事の賜物であると強く感じた次第です。2-3 年毎に担当が変わる他の日本政府機関ではこうはいきません。

2013 年に膜分離技術振興協会のミッションでサウジアラビアを訪問させていただいた際はジェッダ水デスク中埜恭司代表のお力をお借りしました。サウジの標準化機関 SASO を訪問したところ、日本の膜技術がサウジの標準文書に記載されていることを知り、調査団の自信となりました。これを契機としてその後膜分離技術振興協会は水処理膜の国際規格に取り組み、結果として 2021 年に「水の再利用における膜の性能評価ガイドライン」の国際規格発行に至りました。

2023 年現在、国際情勢、なかでも中東情勢は混沌の度が増してきました。紛争や BRICs 諸国の台頭でバイの関係のみならず他国の動静にも目配りしつつ協力を推進することが重要になってきました。

水資源分野では、「水の再利用」が大きなテーマになっていくものと思います。引き続きの水資源分野での協力活動の深化、JCCME のリーダーシップに大きく期待申し上げます。ともに日本の国益に資すべく力を合わせていきたいと存じます。

